

プログラム第2日目：5月21日(日)

教育講演

10：50～11：50

会場1

司会：美馬達哉（立命館大学）

病い研究とポリフォニー
—ミハイル・バフチンから刺激を受けて—

○池田光穂（大阪大学）

ランチョンセミナー

12：05～12：50

会場1

司会：村岡潔（佛教大学）

健康という幻想／病いという至福／癒しという陥穀
医療社会学批判のための三題嘶

○佐藤純一（龍谷大学）

特別講演

14：10～15：00

会場1

司会：細田満和子（星槎大学）

The Medical Profession
: Altruistic or a Self-interested Threat to the Public?

○Mike Saks (University of Suffolk)

RTD③

8:45 ~ 10:45

会場 4

「発達障害」ってなんだろう —社会学的に考える—

企画者：美馬 達哉（立命館大学）
話題提供者：佐々木洋子（大阪市立大学）
西田有香子（名古屋大学）
高木美歩（立命館大学）

RTD④

8:45 ~ 10:45

会場 5

生涯研究並びに研究者のあり方について

企画者：中川輝彦（熊本大学）
話題提供者：村岡潔（佛教大学）
佐藤純一（龍谷大学）

RTD⑤

15:10 ~ 17:10

会場 4

リプロダクションの経験と保健医療

企画者：白井千晶（静岡大学）
話題提供者：菅野摶子（電気通信大学）
熱田敬子（早稲田大学）
永山聰子（東邦大学）

RTD⑥

15:10 ~ 17:10

会場 5

医師の抱える不確実性 —医療人類学の視点から—

企画者・話題提供者：牛山美穂（慶應義塾大学）
話題提供者：新ヶ江章友（大阪市立大学）
照山絢子（筑波大学）
司会：福井栄二郎（島根大学）

RTD⑦

15:10 ~ 17:10

会場 6

科研費審査における学際的共同研究の扱いはどうあるべきか

—科研費改革 2018 と保健医療社会学の未来—

企画者・司会者：樋田美雄（神戸市看護大学）・松繁卓哉（国立保健医療科学院）
話題提供者：油井清光（神戸大学）
松繁卓哉（国立保健医療科学院）
樋田美雄（神戸市看護大学）
指定討論者：孫大輔（東京大学）

●第3セッション 語りの質的研究

司会：高山智子（国立がん研究センター）

3-1 卵子提供で母親になった女性の意識変化のプロセス

—追跡的インタビュー2例の分析から—

○白井千晶（静岡大学）

3-2 「やり尽す医療」を問い合わせる

—End-of-Lifeと向き合う小児科医の語りから—

○鷹田佳典（早稲田大学）

3-3 乳がん経験者における「ピア・サポート」

—乳房再建をめぐる語り—

○菅森朝子（立教大学大学院）

3-4 妻の介護経験から学んだ死に方

—在宅と病院における緩和ケアという選択—

○飯田淳子（川崎医療福祉大学）

3-5 膝の手術を受けた方にとっての日常と宗教的慣習のつながり

○齋藤貴子（日本赤十字秋田看護大学・首都大学東京）

●第4セッション 健康に関わる取り組みと論争

司会：佐藤哲彦（関西学院大学）

4-1 思春期における家族機能と成人期以降の Sense of Coherence との関連

—横断デザインによる全国調査データより—

○戸ヶ里泰典（放送大学）・中山和弘（聖路加国際大学）・横山由香里（日本福祉大学）
米倉佑貴（聖路加国際大学）・山崎喜比古（日本福祉大学）(第6セッションへ) **4-2 テレビおよびWEBにおける発達障害をめぐるContestation**

○西田有香子（名古屋大学）

4-3 「肥満」と「肥満エピデミック」をめぐるコンテストーション

—米国、豪州、日本の事例から—

○山中浩司（大阪大学）

4-4 東京の「下町」におけるソーシャル・キャピタルと人々の健康

—谷中・根津・千駄木における Community-Based Participatory Research からの示唆—

○孫大輔（東京大学）・密山要用（東京大学）・松下弓月（東京大学）

4-5 Contested illness の患者と主治医の信頼構築に向けて

—代替補完医療利用者の病気の原因帰属・患者満足度—

○本間三恵子（埼玉県立大学）

一般演題／口演

15：10～17：00

会場 2

●第5セッション 実態調査と教育

司会：井口高志（奈良女子大学）

5-1 医科大学での社会学教育

○金子雅彦（防衛医科大学校）

5-2 老成学におけるコミュニティ関与型老人の実態調査

—高齢者施設でのベリーダンスイベントの開催を通じて—

○入澤仁美（兵庫医科大学・順天堂大学）

5-3 看護師業務からみる一般病床に起きる問題

○海野 まゆこ（放送大学）

5-4 障害者手帳をもたずに発達障害の診断がある者の実態

—23年生活のしづらさなどに関する調査（厚生労働省）より—

○北村弥生（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）

5-5 死の臨床における専門職の創出あるいは復活をめぐる一考察

—いかにして「臨床宗教師」は日本の看取りを目指す専門職になりえるか—

○福永憲子（大阪府立大学）

17:00

一般演題／口演

15：10～16：40

会場 3

●第6セッション 地域医療と生活

司会：蘭由岐子（大手門学院大学）
追手門学院大学

6-1 中国農村部における地域型総合医療の推進の持つ意味と役割

○賈 子申（佛教大学）

6-2 在住外国人の母子保健支援における保健師と通訳者の連携について

—保健師・外国人利用者・通訳者に対するアンケート調査結果から—

○飯田奈美子（立命館大学）

6-3 コンタクトゾーンとしてのハンセン病療養所長島愛生園

—明石海人、小川正子のプロデューサーとしての内田守—

○松岡秀明（東京大学）

6-4

(第4セッションから) 4-2 テレビおよびWEBにおける発達障害をめぐる Contestation

○西田有香子（名古屋大学）

一般演題／示説 2

10:00 ~ 10:30

会場 7

司会：清水準一（首都大学東京）
進藤雄三（大阪市立大学）

P2-6 専業主婦のライフコースを選択した女性の自己意識に関する研究

○小野智佐子（神奈川工科大学）・小山晶子（帝京大学）
入江多津子（常葉大学）

P2-7 地域開催型ラジオ体操に参加する高齢者の身体・心理面の健康の検討

—グループ・インタビューの内容分析—

○石井俊行（姫路獨協大学）

P2-8 年齢の違いによる「老後の準備のとらえ方」についての調査

○入江多津子（常葉大学）・小野智佐子（国際医療福祉大学）

（発表取り下げ）P2-9 人生の終焉にかかる患者の意思決定プロセス

—筋萎縮性側索硬化症を例に—

○長瀬雅子（順天堂大学）

P2-10 新生児マス・スクリーニングへのタンデムマス質量分析計の導入

—都道府県、指定都市への質問紙調査から—

○笹谷絵里（立命館大学）

P2-11 脳血管疾患を発症した高齢者における「病いとの向き合い方」と

sense of coherence および Self-Rated Health

○阿諱訪公子（初台リハビリテーション病院・放送大学）・戸ヶ里泰典（放送大学）
横山由香里（日本福祉大学）・谷木龍男（清和大学）
米倉佑貴（聖路加国際大学）・徳山千尋（日本医療科学大学）